



廿日市市
地域支援員だより

2021

冬号



地域支援員

それは、地域情報を発信したり、一緒に地域おこし活動をしたり、地域内外の交流をはかったりしながら、地域の力を強くするために廿日市市の職員として1年単位で任用された人のこと。

任期は最長で3年間。その限られた時間の中で、何をやっているのか、佐伯や吉和でどんな動きがあるのかを知ってもらいたくて、この冊子を作りました。年に4回、お届けします。

「佐伯高校の魅力発信！」

はじめまして！令和2年4月より佐伯高校魅力化担当の地域支援員になりました、松本美由紀と申します。

佐伯高校の「ここが素敵！すばらしい！」と思う事を発信するチラシなどを作ったり、インターネットや新聞、ラジオを通じて発信したり、地域と佐伯高校をつなぐ活動、公営塾の運営、学校行事のサポートなどを行なっています。

佐伯高校は、佐伯・吉和地域にある唯一の高校です。八十人足らずの小さな高校に、声を大きくして伝えたい魅力がたくさんあふれています。

その魅力の一つに、佐伯高校で開講されている公営塾のクラス「旅する教室」があります。

公営塾とは、学校と連携し、佐伯高校内で廿日市市が運営している、佐伯高校生のための無料の塾です。

公営塾にはいくつかのクラスがあり、英語と数学の先生が常駐し、わからないところを気軽に聞くことができる「マンツーマンクラス」や、インターネットでアメリカのオレゴン州と佐伯高校をつなぎ、アメリカ在住の先生の元、文化の違いや共通点を発

見しながら、英語にもふれていくクラス「旅する教室」があります。

アメリカの街の様子、古本と新書が同じ場所で売られている本屋、道路標識、看板、アメリカにある「日本のもの」。

佐伯高校にしながら、アメリカを旅しているかのようです。

看板には何と書いてあるのだろうか。日本のアニメの鬼滅の刃はアメリカでもとても人気があるらしい。あの有名な台詞「全集中！」って英語でなんと言うのだろうか？日本でもおなじみのお菓子がアメリカでも売られてるらしいけど、なんだか同じじゃない。日本はいろんな味があって、パッケージにも心遣いがされてるんだ！

自分の日常にない新しいことを知れる楽しさや、普段、当たり前と想っていたことが誇りに思える瞬間、好奇心や探究心を深めている彼らには、どんなワクワクする未来が待っているのでしょうか。

私も高校時代にこんな経験がしてみたかった！と、うらやましく思います。



「ITを通して

移住定住の促進を!!」

初めまして。令和2年8月から定住推進担当の地域支援員として任用されました中井 皓一（なかい こういち）です。中山間地域に移住を考慮ておられる方々への相談対応や、市内外への移住定住に関するプロモーション活動を行っています。

前職にてIT部門で働いていた経験やスキルを活かした様々な取り組みを行っています。その中で特に力を入れているのが、360度カメラという上下左右前後全方位撮影できる特殊なカメラを使った情報発信です。

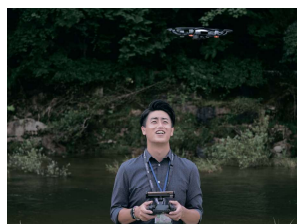
令和3年3月には、Googleストリートビューのように、廿日市市の観光スポットや公園、子育て支援施設を見てもらえる「はつかいちバーチャルツアー」を立ち上げ、好評をいただいています。

現在は、このノウハウを空き家バンクのバーチャル内覧に応用できるように取り組みを進めています。これは地域支援員の採用面接でも提案した特に関心したい取り組みの一つです。というのも、私自身がアメリカへ海外赴任した時の家探しに、とても苦労したからです。

距離や時差などの要因が重なり、アメリカにいる自分と日本にいる妻との間で、物件のイメージの共有がなかなか上手くいきませんでした。そんな時、同僚から教えてもらったアメリカの住宅用360度バーチャルツアーサービスののおかげで、住む家を決めることができました。日本にもこのようなサービスがあれば、きつと便利だろうなと強く思ったことを、今も鮮明に覚えています。

「コロナ禍の今の時代だからこそ、地方への移住を希望される方々に対して、空き家バンクにも必要なサービスであると考えています。それにより、空き家バンクの成約率の向上、ひいては多くの方々に移住していただき地域を盛り上げていければと思っています。

今後もITを通して中山間地域への移住定住を促進できる様な取り組みを行っていきます！どうぞよろしくお願いします。



はつかいち
バーチャルツアー
～ 360度画像で
はつかいちを探検！～

「誰」でも愛される吉和へ

はじめまして、令和2年の10月から吉和地域で地域支援員を行っております深瀬憲司（ふかせけんし）と申します。7年前にUターンで吉和に戻ってまいりました。戻った当初は、地元の企業で働いていましたが、地域支援員募集を知り自分も何か吉和に関する仕事がしたいと思っていたので、応募しました。

担当が「吉和小さな拠点推進担当」と「吉和地域課題解決担当」です。主な活動としては令和5年に完成する支所機能・地域交流スペースを含む「複合施設」を、地域の方がどのように活用できるかを地域の方、行政職員と一緒に円卓会議などで検討することです。

また地域課題解決ということで、私は子育て世代ということもあり、平成30年度に行った吉和地域住民の方へのアンケート調査で困り事として上がっている、「子どもの能力を一段と伸ばす機会と場（クラブやサークルなど）の不足」という課題に注目しています。今現在、吉和地域の方が習い事などをしようと思うと、佐伯地域か沿岸部まで出ないといけません。なので、この吉和地域でも同じように習い事ができるようにしくみづくりに今後取り組んでいきたいです。

吉和地域は、大自然に囲まれ、溪流釣りや登山、キャンプ、冬になればスキーなど年中遊べる場所でもあり、温泉、宿泊施設も多数あります。なかなかこんな田舎はないと思います。（笑）

吉和の子ども達も、吉和地域全体が遊び場といった感じで、のびのびと日々を過ごしています。こういった環境での子育てはとても魅力的だと思います。これから吉和で子育てがしてみたいと思う方が増えるように吉和をPRしていきたいと思えますので、よろしくお願いします。

写真は、私の愛する子ども達です。この子たちがいつまでも吉和を好きでいてくれるように、地域支援員として、パパとして頑張っていきたいと思えます。



本気玖島

「本気(まじ)玖島(くじま)」は、玖島地区コミュニティ推進協議会 文化部の皆さんが発案してくれたプロジェクト名。「地域の皆さんがコロナ禍でも上を向いてもらえるように」という願いを込め、この夏、ひまわり2500本を咲かせました。それ以前から、地域活動に力を入れていた玖島地区。住んでいらっしやる方が元気に過ごせるのはもちろんのこと、地区外からも訪れたり移住してきてくれる方が増えて、活気のある地区になって欲しいと「本気」で取り組まれています。



そんな玖島地区の地域支援員として任用されたのはこの4月。実は「玖島」がどこにあるかも知らずに応募してしまいました。課せられた役に

あった、効果的な広報活動の実施、多様な人たちをつなぐパイプ役、旧玖島小学校を活用した事業の企画・実施といったことが、これまでの経験をいかすこともでき、なおかつこれまでとは違う新しい世界につながるのではないかと思ったのです。なんとか任用していただき今日に至っています。

現在取り組んでいることのひとつは、ホームページとSNSの開設です。応募前に「玖島」で検索しても、ほとんど情報が得られなかったという経験もあり、まずは玖島から情報を発信していきたい。そして玖島に関心のある方と地域をつなげられたいと思っています。

もうひとつは、旧玖島小学校をどう活用するのが一番地区にとってプラスになるのかを、一緒に考え、実現させることのお手伝いです。学校はそこに住む人にとっても大切な存在。残念ながら廃校となってしまうことが、かつての姿そのままに活用されることが決まり改修された今、新たな役割を担って、再び地区の核となって欲しいと思えます。



玖島地区
活性化担当

義志裕子



自己紹介

浅原地区の地域支援員として令和3年4月から勤務をしている、西本智詞(にしもと ともり)です。大学卒業後に一般企業に就職した後、地域支援員の任用となりました。出身は広島市内ですが、大学在学中から浅原へ何度も通っていたので、浅原地区には前から愛着があります。



浅原の紹介

浅原の好きなところを紹介します。

- ・浅原交流会館に行けば誰かがいる。そんな場所だと思います。
- ・浅原のことをより知れる、学べる場所です。新鮮な野菜を購入することもでき、カフェあさはらの営業日にはおいしい定食を食べることもできます。是非、一度足を運んでみてください！
- ・自然が豊かで落ち着いているところ。浅原へ訪問する度に、田園や川の風景に毎回癒やされています。

主にやっている仕事

現在の主な業務はデータの作成や地域まわりです。

浅原のまちづくりアンケートの集計に関わらせてもらっており、データを通して浅原を分析することが多いです。調査をして集めたデータを一覧化し、見やすい資料ができた時はとてもやりがいがあります。

また、新型コロナウイルスによる行動制限を受けながらですが、地域まわりを行っています。地域内の空き家の確認や住民に顔を覚えてもらうことを目的にしています。地域の住民と「ミニニケーション」をたくさんとる事で地域の魅力あるモノ・コトを発見できます。

今後に向けて

「人とつながること」がはじめの業務だと考えています。新型コロナウイルスの影響もあり、なかなか思うように活動ができていませんが、見かけた際は声をかけていただければと思います。よろしくお願いします！

「地域農業について」

農業の今後を考える

はじめまして、令和3年5月に着任しました農業担当の地域支援員の中山理公と申します。廿日市市原地区出身で、県外の大学を卒業した後に地域の農業者さんの勧めで地域支援員に応募しました。現在は津田地域で活動しています。前任の支援員は栗栖地域で麦を栽培し「さいきビール」の商品化に取り組んでいたため、私も自分にあつた地域を見つけ活動していきたいです。任用期間が短く社会経験も少ない状態で日々勉強の毎日ですが、定期的に地域行事・農業者支援を行い地域との交流を深めながら自分にできることをしています。

大学では農学部に所属し、農業に対する社会的問題を経済学や歴史学、生理学など多彩な学問から見つめ学習しました。私は主に農村社会学について研究し、これから地域と農業が存続していくための糸口を近隣地域の圃場に違いながら探していました。

農業担当地域支援員の主な活動内容は、水田農業維持、需要のある作物の植え付けや企業連携・農福連携の推進、地域農業の情報発信、農業体験を通じた交流人口増加への取り組みです。

近年農業への関心が高まり、農業を育む地域の重要性も再認識されるようになりました。令和2年に食料・農業・農村基本計画が新しくなり、農業・農村のもつ多面的な機能を活かした地域政策が盛り込まれ、地産地消・スローフードの動きも活発になってきました。

しかしながら、年々耕作放棄地は増え続け私たちの知らないところで農地の荒廃が進み、農業従事者の数も減少しています。農地の耕作放棄地化を食い止め、地域の貴重な財産である農地を次世代へと引き継ぐためにも、農業を多様な視点から考え、活動していきたいです。大学を出たばかりで分からないことも多いですが、大学で得た知識を活用し、地域と農業が存続できるように頑張りますので、よろしくお願いします。



編集後記

しばらく休刊(?)となっていた地域支援員の広報誌が装いも新たに「さよし キュンto山」としてリニューアルされました！記念すべきリニューアル号ということもあり、6人が一緒に写ったインパクトのある写真を表紙に使いたかったので、今回は360度カメラで撮影を行いました。稲刈りが終わったばかりの田に立つ個性豊かな私たち6人の地域支援員と、青い空に紅葉がかった山がとても印象的な写真が撮れてみんな大満足でした！